

サポートルーム通信

五中担当 サポートルーム教員

高橋和希/田口丈貴/佐々木浩人/吉田菜那子

他校担当 サポートルーム教員

横山泰子/須志田智章/金山千里

専門員 高野滋

サポートルームの一年間を振り返って

生徒のコメント（インタビューのまとめ）

- ・記憶力が前より上がった気がする。
- ・板書が早くなった。やることを整理して覚えることができた。
- ・想像力が上がった。
- ・サポートルームに行きやすい。「今日サポートルームがあるから頑張ろう!」と思える。
- ・毎週楽しみ。あったことを話せて安心。
- ・楽しかった。
- ・言いたい言葉がすぐに出てくるようになった。
- ・メモの取り方や考え方など、いろいろな力が身についた。
- ・また来年度も通いたい。
- ・ちょっと自信がついた気がする。
- ・自分のためになることをたくさん教わった。
- ・先生がやる内容を毎回工夫してくれたので楽しく受けられた。
- ・先生との「最近トーク」が楽しかった。
- ・タブレットを使っただけの授業だと、手書きするより自分の考えや気持ちなどをまとめやすくよかった。
- ・毎週、自分の一週間を振り返る時間を作ってくれたり、次の一週間で、これだけはやろうと先生から言ってくれたりして、頑張ることができた。

サポートルーム教員より

今年度のサポートルームでの授業が終了しました。個別での授業で、みんな自分の良さを発揮していたり、いろんな話をしたりする中で、リラックスしながらも集中して取り組んでいました。

来年度も興味をもった人はサポートルームや担任の先生に話をしてみてください。

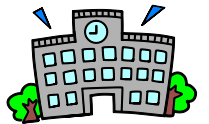
Take It Easy! 完結

4月から連載した' Take It Easy!' は3月3日発行 No:18 をもって完結しました。サポートルームへの関わりがあるなしにかかわらず、日々の生活の中で対人関係や自分の性格、あるいは学習などの悩みを抱えている人は多いと思います。そこで、皆さんに役立つ情報やアドバイスなどを提供できればと願い、発行してきました。

2階廊下のバックナンバーを読んでいる生徒もよく見かけましたし、保護者からも「毎回楽しみにしていますよ」「役立つ内容ですね」等とうれしい感想がいくつか寄せられました。五中のホームページにもアップロードしていますので、これからもぜひご活用ください。

～ ～ * ～ ～ * ～ ～

4月からは学年が上がったり新しい学校に入ったりと、新生活が始まります。良いスタートを切るためにも、この時期、一年間のまとめとして、学習や生活をしっかりやって有終の美を飾りましょう。



サポートルームは、学習上、生活上でさまざまな困り感、悩みをもつ生徒がそれらの改善、克服を図るために、一人一人の特性に合わせた支援をすることがねらいです。通室する生徒たちは、毎週一回の授業で自分の課題に向き合い努力を続けています。◆人の心身の成長の度合いは均一ではありません。得意、不得意なこと、性格や興味、関心の内容もさまざまです。生徒一人一人は大きな可能性を秘めています。できないことをできるようにすることに加えて、できることを更に伸ばすことで自分の可能性を大きく広げられます。◆20世紀最高の物理学者と称されるアインシュタインは七歳まで文字が読めず暗記が苦手だったそうです。また、黒柳徹子さんはLD(学習障害)等の発達障害をもちながらも、女優、タレント、エッセイスト、三セブ親善大使等様々な肩書を持ち、長く活躍されています。これらは困難にめげず自分の能力を発揮した好例と言えます。また、同様に困難を乗り越え、自分の特性を十分に生かし、活躍している方が社会にはたくさんいらっしゃいます。◆今できないことがこれから先もできないと誰が決めつけられるでしょうか？きつかけ等の転機を生かし、努力を積み重ねていけば、その人それぞれの可能性はきっと大きく開花していくことでしょう。◆「できない」「が」「できる」に、「できる」がもつて「できる」になるよう、サポートルームが転換点や推進力となるよう、生徒たちをこれからも支援していきたいと思えます。